

# 京都市地域・多文化交流 ネットワークサロン通信

発行日 2017年11月1日 編集・発行 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン 第23号

2017年4月22日「東九条春まつり」報告第二弾



すっかり秋深くなりましたが、春まつり「若者トークショー」の報告をします。東九条に関わりある「若者」8人が、このまちに関わったきっかけ、このまちをどう見ているか、まちの好きなところや自分の夢など、それぞれの感性で話しました。「シニアトークショー（ネットワークサロン通信22号掲載）」で東九条の生き様が語られたのを受けて、年齢はほぼ20歳代のメンバーが口にした言葉は、東九条が生み育てた感性そのものでした。1時間のトークが終わりに近づくほど、緊張がとけ、話がはずみ、「東九条は価値観を多様化できるまち」という感想が飛び出たのには驚きました。

春まつりをきっかけに東九条と新たに出会った「京都ダルク」や「HOPE300」のメンバーと東九条の若者たちが顔を合わせ、思いを出し合った企画自体が新鮮でした。本当は、もっともっともっと多様な東九条の若者たちの思いがあるはずです。このまちの人間模様を描いていくトークショーは、きっとまだまだつづくでしょう。（さとう大）

## 東九条トークショー〈青年の部〉

### 〈パネリスト〉

**笠嶋 敏**…京都 DARC（薬物依存症者リハビリ施設）スタッフ。東九条のイベントスタッフとして活躍。

**下林 慶史**…日本自立生活センター（JCIL）で活動している。今年から東九条で一人暮らしを始めた。

**陳 宇**…HOPE300 の活動で、留学生・地域のサポートをしている。

**金谷 彩香**…東九条マダンのブムル隊でチャンゴを叩いている。希望の家カトリック保育園卒園。

**川元 達正**…東九条マダン、サムルのたまごのリーダー。希望の家カトリック保育園卒園。

### 〈コーディネーター〉

**さとう 大**…エルファ共同作業所勤務。

### 〈コメンテーター〉

**松島 理菜**…立命館大学産業社会学部卒業。在学中の3年間、JCIL や東九条マダン・サムルのたまごに関わる。

### 〈記録〉

**山田 大地**…立命館大学社会学研究科修了。仕事の合間に東九条でボランティアを続けている。

東九条マダン：今年で25回を迎える多文化共生の祭り。マダンは広場の意味。

チャンゴ：朝鮮半島の打楽器。

サムルノリ：朝鮮半島の4つの打楽器の演奏。座って演奏する。



## お題その1

### 東九条の好きなところ

**笠嶋** この春まつりで隣のブースになって知り合った、シゴル（東九条にある韓国料理屋）のおかあさんの思いやりです。井手町の畑にも連れていってもらい、畑をお借りして農作業もしています。



**下林** 活動の場でも、生活の場でも、たくさんの方がなにげなく声をかけてくれるところです。それが、すごくありがたいです。

**陳** 多彩な食文化です。大学時代、日本料理の勉強をしましたが、東九条では、いろんな国の料理が味わえて、とてもいいと思います。

**金谷** 東九条マダンを続けていて出会った、いろいろな年代の方とか、地域の人とかから、自分が知らなかったことを、たくさん教えてもらったことです。中国やアメリカの留学生がブムル隊の練習に来たこともあります。



**川元** サムルのたまごでケンガリをしているときに、お客さまが応援してくれて、そのときに愛情をもらっているなって感じました。それが、やっぱりいいかなあ。

ケンガリ…サムレノリをリードする金属の打楽器

**さとう** 松島さん、東九条マダンは、多文化、多民族のお祭りですが、障がい者の文化も入っているとってましたね。

**松島** フラットに、当たり前、溶け込んでいる印象があります。実行委員会の会議からはじまり、マダンの随所で活躍していて、みんな楽しそうなのが印象的です。さとちゃん（川元さん）がリーダーをしているサムルのたまごは、障がいのあるこどもたちでサムレノリを演奏するチームです。サポート役と言いながら、保護者も一緒に演奏して楽しんでいます。

## お題その2

### 貧困、差別や偏見の歴史をもつ東九条で思うこと

**笠嶋** わたし自身、薬物を使っているときに、人生をめちゃくちゃにしました。それは自分の責任だと思うと、いつのまにか社会から隠れて、こそこそ生きるようになっていたと思います。ダルクを支援してくださいという、周りの人は「自分で好きで薬物を使ったのに何で助けるんだ」とまず言います。そらそうやわなという部分もありますが、薬物をやめていく過程で、社会に必要とされていると感じながら、社会の中で生きていくのが大切だと思います。薬物の簡単なやめ方なんてないんです。薬物を使わへんでいい生き方は、人と共に生きないといけない。偏見から隠れて生きるんじゃなくて、いろんな人に助けをもらいながら堂々と社会のなかで回復していく。はじめは自己否定が強い人が多いですが、人の役に立つことで、だんだんと自己肯定感を高めて、薬は必要ないと思える生き方を、東九条のまつりで学ばしていただいています。

**下林** JCIL で活動を始めてから、まる7、8年目になりますが、これまで障がい者に対してどういうふうな差別があって、いまそれがどういうふうに変化しているのか、ぼくが話すにはまだ経験がすごく少ないなあと思います。今年の1月から東九条に住み始めました。すぐそこに住んでいます。東九条が活動の場だけでなく生活の場にもなりました。全部含まれているところに自分から飛び込んでいったので、これからいろいろ体感して行って、どういうふうに感じていくかというのを、実際に住んで考えていきたいなとすごく思っています。いま、中に入ったと感じています。



**陳** わたし自身は、偏見とか差別とかは感じません。来日10年目で、日本で大学と大学院を卒業して昨年就職したんですが、日本のみなさんには本当に親切にいただきました。でも、偏見が全くないとは思えません。聞いた話ですけど、新聞配達のアリバイトをしている日本の友だちに「東九条は外国人が多くてちょっと怖いな」と言われた人もいます。

**金谷** わたしの父親が韓国人なんですが、わたしが産まれて国籍を決めるときに日本人（日本国籍）にしたんですよ。で、その理由を一回聞いたことがあって、そのときに親が言ったのは、「この国は日本やから、韓国人や

「帰ったら韓国に帰れとか言われる」みたいなことでした。父親が韓国人で、そう言われてきたから、それが怖いって。子どもにはそういう思いをさせたくないから、日本人っていう国籍にしたと聞きました。わたしは東九条マダンに触れて、韓国人やからどうって言われることもないし、日本人やからどうってこともない。なんていうんですか、平等で、共存できる場所がある。偏見とか持たれるのは怖いんですけど、自分には仲間がいるし、「帰れ」と言われるのは残っているとは思んですけど、それを助けることができるような人に、自分になりたいなと、今は思っています。

**川元** 東九条で最近よく聞くのは、ごみが落ちていてちょっと汚いって話。高瀬川にごみが落ちているけど、もうちょっと綺麗にしたら、町がよみがえるかなって思います。

### お題その3

#### これからの東九条

**川元** 東九条マダンもそうやし、サムルのたまごが障がい者で演奏をしているっていうことを、もうちょっとみんなに知ってほしい。ぼくがチャンゴをしたきっかけは、山王小学校に民族学級があって、そこで初めてチャンゴを見て、やりたいな〜って思ってしまった。将来は、今やってるケンガリをレベルアップしていきたい。

**さとう** コリアンルーツではない川元さんが、民族学級に行ってチャンゴと触れ合えるという幅の広さが、東九条の良さですね。

**金谷** 今後の目標なんですけど…。マダンに関わっている障がい者とあんまりしゃべったことがないんで、どういう活動してて、どういう人なんだろうって、よくわからないんです。東九条マダンでもっとしゃべって行って、その人たちの価値観も知って、自分の価値観も高めていきたいなって思いますね。



**陳** 東九条はいろんな国の人が多いので、その国の文化を展示する場があればいいなと思いますね。わたしは大学で食文化を研究していたんですが、いろんな土地の料理をみんなで学び合うことで、お互いの国の文化への理解が深まると思います。中華料理教室も、ぜひ、してみたいです(笑)

**下林** 住みながら変えていくというか、知っていくというのが大事なことなんじゃないかなと思います。昨年の9月頃に、市営住宅の募集がありまして、車いすで生活するのにもすごく良さそうで、妥協せずに応募してみようと思ったら、当たりました。その人の障がいにもよるんですけども、自分にとってはすごく住み心地よいです。実際に当たってからじゃないと内覧には行けないんで、運がよかったなど。人生の運を半分くらい使いました(笑)

**笠嶋** ダルクにも幅広い多文化があります。いろんな薬物、いろんな年齢、全国から集まってくるなど、ジェネレーションギャップもあるし、薬が違うだけで話が合わんという部分もあるんです。だから、俺はあいつと違う、あいつは俺と違う、っていう違い探しから始まったんです。そしたら最初からいた人に、違い探しをしても何も成長しないから、人のいいところや自分との共通点を見つけていきましょうって言われました。いまは、こちら側から心開いて、人と出会って、これまで自分ができなかったことをやってみようって参加しています。マダンにも参加させていただいています。



**松島** 東九条に関わって価値観が変わったと思います。ここに住んでいる人たちもそうなんだなと思いました。いまは千葉在住なんですけど、東九条は一回関わったらつながり続けられるのも魅力だと思います。人の温かさがあって、いきなりやってきた人にも一緒にやらないの?みたいなテンションで声をかけてくれる、おもてなし文化があって、そこがほんとに魅力的で、いろんな人を呼び寄せているのかなと思いました。

## 最後のお題

### 京都駅東南部エリア活性化方針 / 京都市立芸術大学移転について

**川元** 若者が増えて、もしできれば、一緒に、サムのたまごも参加してくれたらありがたいな。ケンガリもチヤングも教えてあげたいなっていう気持ちはあります。

**金谷** わたしも一緒に、マダンを一緒に作っていきいたいな。今まで作り上げてきた人たちや、盛り上げてきてくれた人たちに負けたくないくらい、もっと若いパワーっていうか、新しい力をどんどん増やして、より一層活気あるマダンとか、町にしていきたいなって思いますね。

**陳** もし、たくさんの海外の方が東九条に来られたら、本当にうれしい。私たちがしているボランティア活動を通して、東九条を活気あふれるまちにしていきたいです。

**下林** 住むという観点では、自分も出迎えてもらったんですね。新しい人がいっぱい入ってくるからには、同じように出迎えてあげたい。もっともっと活気づいていったらいいなと思います。

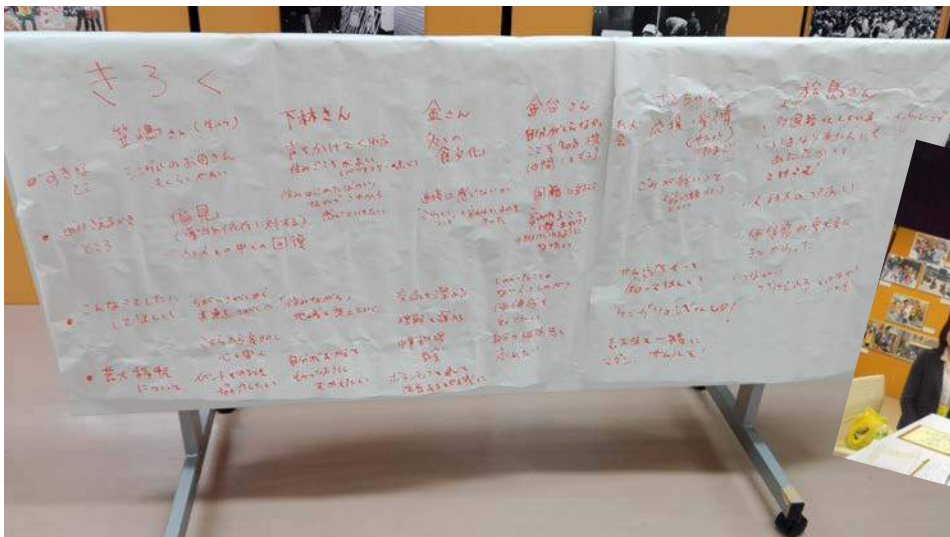
**笠嶋** 人が増えたら、交流とかイベントとかも増えていくと思いますので、ダルクとして手伝えることがもっともっと増えるだろうなと思うんで、お声掛けしていただいて、できることは協力していきたいと思います。その中で、自分たちのことを知ってもらうことにつながるのが一番かなあというふうに思っています。

**さとう** 人とぶつかり、社会とつながることで差別を乗り越えるという発想と実践が、東九条にはあふれていたと思います。弱い者をのけものにするのを許さない気風も、生まれているように思います。最後に、記録をしていただいた山田さんにまとめをお願いします。



**山田** 東九条に住んでいる人の価値観が、訪れる様々な人を迎え入れるなかで変わっていったということが、ものすごく大事な意見だなと思いました。今後、新しい大学や若者が来ても、これまでのように人を迎えることで価値観を多様化させてきた東九条の魅力は変わらないと思います。むしろプラスの効果があるだろうと思いがら聞いていました。

**さとう** ありがとうございました。今後もこんな会をつづけていきましょう！



## ～東九条夏祭りで狂言～2017年8月19日東九条地域・多文化交流夏まつり

はじめまして。あこうさとしと申します。私は、演劇作品を作りながら、この頃は、劇場そのものを東九条地域に作ろうと活動しています。といいますのも、舞台芸術の底を支える小劇場が、京都から消滅しようとしています。そこで、私のほか、狂言師の茂山あきらさん、現代美術作家で演出家のやなぎみわさんら、7人のメンバーで一般社団法人アーツシード京都を立ち上げて、「京都に100年つづく新しい劇場を！」という合言葉でプロジェクトを開始いたしました。具体的には東九条南河原町にあります(株)八清さんの倉庫を、お借りして、劇場にリニューアルしようというプロジェクトです。昨年あたりから地域の皆様、そして、ネットワークサロンの皆様と少しずつ交流を持たせていただきながら、プロジェクトを進めております。

そのご縁もありまして、ネットワークサロンの宇山さんから、2017年の夏祭りで、何か出し物を作ってほしいとのご連絡を頂きました。私たちも、地域の皆様と交流やご挨拶の機会を頂けますのは大変ありがたいものでした。少々悩んだ末、私たちのメンバーの茂山あきらさんに、ご相談いたしまして、ご子息の童司さんと狂言を上演いただく運びとなりました。

演目は「柿山伏」。木に登って柿を盗み食いしていた山伏を、持ち主がを見つけ、犬か？猿か？と言う度に、山伏が声マネをします。最後に鳶(とび)は飛ぶものといわれて、山伏は飛んで落っこちて大けがをするというものです。原文の風味を残しながらも、丁度いい具合に現代語訳された台詞回し、あきらさんの知的な意地悪さ(笑)と童司さんのおどけた柔らかな演技は、大人の方にも、そしてお子さん達にも楽しんでいただけたのではないかと思います。舞台の上演環境としては厳しいものがありましたが、私には狂言や或いは芸能の原風景を見た思いがいたしました。

その後は、見に来てくれた舞台芸術の仲間や地域のみなさんと共に、お酒を飲んでお食事を楽しみ、盆踊りでも輪の中に入れていただきました。実に楽しい夏のひとときを過ごさせていただきました。劇場そのものは、認可や資金の問題があり、まだまだできるかどうかはわかりませんが、劇場や舞台芸術が、地域の皆様の暮らしの中で、一つの彩りとなることができればと願っております。今後とも、ご支援、ご指導の程、よろしくお願い申し上げます。アーツシード京都のホームページはこちらです。

<https://askyoto.or.jp> (あこうさとし)



□ 所在地：〒601-8006 京都市南区東九条東岩本町 31 (京都市地域・多文化交流ネットワークセンター内)

□ TEL: 075-671-0108 □ FAX: 075-691-7471 □ E-Mail: info@kyotonetworksalon.jp

□ 開館時間: 9時～17時 □ WEB サイト: <http://www.kyotonetworksalon.jp>

□ JR 京都駅八条口・京阪東福寺駅・市営地下鉄九条駅より徒歩 15 分

京都市バス 42・202・207・208 系統 九条河原町より徒歩 10 分／84 系統 河原町東寺道より徒歩 1 分